



クロモについて発表する本吉響高校の生徒の皆さん（左）、参加者は約50人でした（右上）、閉会後も、盛り上がっていました（右下）。

伊豆沼・内沼の自然をもっと知るために

第7回 伊豆沼・内沼研究集会開催

2月17日（日）に、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターで「第7回伊豆沼・内沼研究集会」を開催しました。伊豆沼・内沼での研究成果や活動報告などの発表がありました。また、閉会後も多くの方が談笑する光景もみられ、情報交換の場として活用して頂きました。



プログラム

1. 曳（ひ）き網・巻き網を用いたブラックバス稚魚の駆除方法について
芦澤 淳（伊豆沼・内沼環境保全財団）
2. 消石灰を用いたオオクチバスの駆除方法について
鈴木勝利（伊豆沼・内沼環境保全財団）
3. シナイモツゴの繁殖生態－産卵と稚魚の食生活－
高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）
4. 生きものの生息を可能にする水路工法について
三塚牧夫（伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会）
5. 伊豆沼第三工区（飯島伊豆崎地区）の生き物調査について
今 隆哉（東北農政局）
6. 踏査によって明らかとなった伊豆沼・内沼の沈水植物の生育状況
横山 潤（山形大学 理学部）
7. 伊豆沼・内沼の沈水植物復元に向けた取り組み－伊豆沼・内沼自然再生事業4年目の状況報告－
佐藤博信（(株)東北緑化）
8. クロモ群落復元に向けた殖芽の発芽条件等の研究
佐藤大秀・小松 尚・鎌田大輝（本吉響高等学校・科学部）
9. 水鳥が飛来する伊豆沼畔人工池における水質の経年変動
佐藤 歩（東北工業大学環境情報工学科）
10. (情報提供) シジウカラガンの飛来状況について
高橋俊雄（雁の里親友の会）

伊豆沼・内沼いきもの図鑑

マガン *Anser albifrons*



伊豆沼・内沼で見られる時期: 9月下旬～2月上旬
 伊豆沼・内沼で見られる場所: 沼・沼周辺の水田
 食べ物: 落ちもみ・大豆

●平成24年度ガン・カモ類生息調査 2013年3月7日（宮城県内一斉調査）

ガン類	30,876羽
ハクチョウ類	236羽
カモ類	5,107羽

2013年2月22日

ガン類	46,745羽
ハクチョウ類	2,455羽
カモ類	2,011羽

カモ科に属する鳥の一種。主に湖や池沼などに生息します。国内飛来数の80%以上が宮城県北部に飛来します。水田で落ちもみなどを食べて過ごします。

伊豆沼・内沼には、9月下旬に繁殖地である極東ロシアから飛来し、2月上旬に極東ロシアへ帰っていきます。

3月7日に「ガン・カモ類生息調査」があり、宮城県北部（伊豆沼・内沼、蕪栗沼、化女沼）のマガンの数は65,022羽確認され、そのうち伊豆沼・内沼では30,876羽のマガンが確認されました。寒波の影響で気温が低いため、マガンの北帰行は平年より遅れている模様です。



マガンの北帰行ルート（伊豆沼・内沼の場合）

70歳までの健康な方、 お手伝い頂けませんか

環境保全財団では、伊豆沼・内沼の保全活動に係わる作業全般にご協力頂ける方を募集します。

雇用期間は1年間ですが、忙しい時期は、5月～7月と2月～3月です。年間で約70日間くらいの作業で、日当は7,100円で労働保険に加入します。

詳細につきましては、下記連絡先までお問い合わせください。



沼周辺の草刈り作業

(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
 Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
 ホームページ: <http://izunuma.org/>
 E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp